

9037 ハマキョウレックス

大須賀 秀徳 (オオスカ ヒデノリ)

株式会社ハマキョウレックス社長

収益性向上により連結・単体とも増益

◆2015年3月期決算概要

当期は営業収益919億24百万円(前期比△0.0%)、経常利益70億19百万円(同14.7%増)だった。営業収益は貨物自動車運送事業で運賃単価の料金交渉、新規顧客の獲得により増加したが、物流センター事業は物量の減少により減収となった。増益の主な要因は、物流センター事業においては、支社長制導入による体制強化により業務効率化を行ったことである。貨物自動車運送事業においては、燃料単価の下落により燃料費用が前期比1億80百万円減少したこと、営業収益の増加によるものである。

5年間の業績の推移でみると、営業収益は前期比44百万円の減収となったが、営業利益、経常利益、当期純利益とも過去最高となった。収益構造は、2013年3月期、2014年3月期は利益面で若干足踏みしているが、ここで体制強化を図ったことにより、2015年3月期は2012年3月期以前の成長のスピード感に戻すことができた。

物流センター事業の営業収益は、前期オープンしたセンターの18億85百万円、当期オープンしたセンターの4億95百万円が増収効果となっている。既存センターは、増収したセンターの合計が16億78百万円増、減収したセンターの合計が41億96百万円減となっている。

物流センター事業は、当期14社の物流を受託している。稼働状況については、前期に受託した2社を合わせた16社のうち、13社が稼働している。未稼働の3社は、今後順次稼働する予定である。3月末時点の物流センター総数は80センターとなっている。取扱品目別売上構成比は、食品が23%、アパレル関連が41%、医療関連および雑貨が36%だった。食品とアパレルが微減、医療と雑貨が増加している。

貨物自動車運送事業の営業収益は、481億53百万円(前期比91百万円増)となった。近物レックス(株)において運賃単価の料金交渉が進んでいるが、物量が減少したため売上は減少した。一方、その他の子会社で自動車関連の物量が増加したことや新規顧客の獲得により、増収となった。

◆2016年3月期計画

2016年3月期の業績予想は、営業収益940億円、営業利益74億円、経常利益75億円としている。設備計画は、連結で130億円を計画している。

中期経営計画では、2018年3月期の経常利益100億円を目標に取り組んでいく。計画達成に向けた今後の取り組みとしては、まず3PL事業を成長ドライバーとした戦略を継続していく。3つのキーワード、「日々収支」「全員参加」「コミュニケーション」の既存路線を踏襲したうえで、現場力をさらに上げていく。グループ内のインフラ・ノウハウを有効活用しながら、強みである現場力を上げ、利益を積み上げていきたい。

新規営業に関しては、引き続き年間新規受託目標15社以上を目指す。海外戦略への取り組みは、国内の顧客満足度向上に引き続き取り組む。3年後の目標達成に向けて、これらの施策に着実に取り組んでいきたい。

2016年3月期の配当金は1株当たり46円の計画としているが、現在検討中である。

◆2015年3月期決算実績

経営企画室課長 竹内 義之

第1四半期、第2四半期は消費税増税後の在庫補充による影響で、営業収益、各利益は前期比プラスとなった。第3四半期以降は物量が減少したが、物流センター事業については、部長会実施等による業務効率化により最小限に抑えることができ、各利益は前期比プラスとなっている。

貨物自動車運送事業については、第2四半期から第3四半期に運賃単価の料金交渉、新規顧客獲得で増収増益とすることができた。第4四半期は物量が減少したが、燃料単価の下落等により、営業利益は前期比プラスとなった。

経費・人件費のうち、人件費率はおおむね横ばいの状況である。

貸借対照表の総資産は、51億76百万円増加し943億41百万円となった。現金および預金が21億6百万円、受取手形および売掛金が3億93百万円、流動資産が20億62百万円、設備投資等により固定資産が31億14百万円増加したことによる。負債は9億94百万円増加し、561億97百万円となった。消費税増税後の影響により、未払消費税が12億17百万円増加したことが主な要因である。

有利子負債(借入金)は、13億25百万円減少の297億85百万円となった。減少の主な要因は各社の返済が順調に進んだことによる。

キャッシュフローは、営業活動が101億26百万円の資金獲得、投資活動は45億61百万円の支払い、財務活動は34億28百万円の支払いとなった。来期は物流センターの建設を予定しており、設備を加え、投資活動によるキャッシュフローは120億円の計画である。

設備投資と減価償却費は、投資額71億89百万円、減価償却費は34億42百万円となった。来期は物流センターの建設を予定しており、設備計画は130億円としている。

◆近物レックス(株)の現況と今後の戦略

2015年3月期の近物レックス単体の売上は、前期比1億6百万円の減収となった。主な要因は、前年の第4四半期の増税の駆け込み需要により、特に3月の物量が大きく減少したことによる。営業利益、経常利益は、運賃単価の値上げ等により収益性が向上したこと、8月以降に燃料価格が下がったことにより増益となった。

5年間の業績推移をみると、収益向上による利益の増加により、連結・単体ともに過去最高の経常利益を計上することができた。売上が増税前の特需の反動から減収となった一方で、連結・単体ともに営業利益は8期連続、経常利益は3期連続の増益となった。

2014年度は、収益性の向上と安全への取り組みを重点的に実施してきた。営業面については適正運賃の収受到に注力した。既存顧客の運賃値上げも重点的に展開した結果、前期比で単価を7%上昇することができた。来期以降も引き続き実施する予定である。

2015年度は、営業面については引き続き運賃値上げに取り組む。新規顧客の獲得と、同業とのアライアンスの実現により増収を図る。あわせて、輸送品質の向上へ全社一丸となって安全・安心な輸送体制を構築する。費用面については、労働力の確保に注力する。多角的に採用を展開し、不足する労働力を補い、運送委託料の増加を抑える。

来期の業績予想は、売上は計画比8億93百万円増の375億74百万円。営業利益は3億10百万円増の12億55百万円。経常利益は3億4百万円増の12億12百万円と、いずれも過去最高の数値を目指す。

(平成27年5月26日・東京)

* 当日の説明会資料は以下のHPアドレスから見るができます。

<http://www.hamakyorex.co.jp/ir/library/presentation/index.html>